

令和6年度事業計画について

<基本方針>

財団が保有している旧萩藩主毛利家が歴代に渡って伝世してきた文物資料、建造物等を保存・管理し、これらを公開して教育・文化の振興に寄与するため、以下に示す方針に基づき、来館者の増加と満足度を高める取り組みを推進します。

昨年度には雲谷等益筆の「四季山水図」が新たな国の重要文化財として、また「大内氏故実書」が山口県指定有形文化財として指定を受けました。さらに今年の秋からはJR西日本のトワイライトエクスプレス瑞風の立ち寄り施設となることが決まり、3月1日から予約申込みが始まっていますので、この機会によりグレードアップした博物館・庭園となるよう積極的に取り組みます。また、110年を経過した建物・庭園は、近年の異常気象などによる経年劣化や毀損が進んでおり、迅速な対応ができるよう自主財源や収益力をアップするために料金改定等(別紙資料)を実施し、安全対策や景観改善を図ります。

I 毛利博物館の事業

1. 展示

(1)【平常展】 第一展示室 基調テーマ「毛利家の歴史と文化」

基調テーマにしたがい、毛利家の歴史や文化への関心と理解とを深める展示を行う。

ただし、イベントなどに際しては必要に応じて関連資料を展示する。

(2)【特別展・企画展】 第二展示室

本年は、NHKの大河ドラマにより平安時代に注目が集まることや、JR西日本の観光列車「瑞風」乗客が来館することから、防府市と連携して関連の集客事業を展開する。また、

当館の大内氏関係資料が県有形文化財に指定されたことや、連日マスコミに大きく大内文化が取り上げられていることを追い風に、山口県とも連携して集客に努める。

展覧会名	期間	内容	目標入館数
企画展 『源氏物語』の 時代-摂関政治と大 江一族-	4月19日 ～ 6月 2日	『源氏物語』の華やかな貴族生活を支えていたのは、大江氏を始めとする中堅官僚でした。摂関家のもとで力を蓄えていく毛利氏の祖大江氏の姿を紹介します。	3,500 人
企画展 重要文化財 「毛利家文書」追加指 定40年記念 毛利家の 大切な記録	6月 6日 ～ 7月 8日	毛利家伝来の数多くの古文書のうちから、長州藩主時代の古文書が重要文化財に追加指定されてから40年、節目の年にあたり、歴史的にも興味深い資料を選びすぐって紹介します。	1,500 人
企画展 毛利のおとのさま -激動と波乱の 長州藩14代-	7月19日 ～ 9月 2日	長州藩を統治した14人の藩主全員の肖像画を、ゆかりの品々とともに公開し、江戸時代260年における波乱と激動の毛利家の歴史を紹介します。	2,500 人
企画展 山口県文化財指定 記念 武家のならわし -大内氏故実書の 世界-	9月13日 ～ 10月 27日	毛利氏が大内氏から継承した儀礼や作法に関する故実書114点が山口県指定有形文化財に指定されたことを記念し、大内文化を代表する一連の資料を、史上初めて一堂に公開します。	2,500 人
特別展 国 宝	11月1日 ～ 12月2日	雪舟筆「四季山水図」、「古今和歌集(高野切本)」をはじめとする国宝や重要文化財など、評価も高い伝来の優品を一堂に展示します。	10,000 人

企画展 毛利家のお正月	12月6日 ～ 1月20日	毛利家伝来の「正月飾り」ほか、正月にちなみ福を招く吉祥の意匠が描かれた絵画・工芸品など、毛利家伝来のめでたい品々を展示します。 (12月22日～12月31日は休館)	1,000 人
企画展 毛利家の 雛まつり	2月 7日 ～ 4月 7日	“ひなまつり”にちなみ、華やかな「古今雛」の段飾りや、雛道具や衣裳・調度など、毛利家の女性を魅了した華麗な品々を展示します。	3,500 人

2. 資料の保存事業

刀剣など恒常的な手入れが必要なものは引き続き管理を徹底し、収蔵庫内の環境を整備するため、除湿装置などの点検や、資料の燻蒸を行う。

3. 資料の整理・調査

- (1) 館蔵資料のうち、近代資料をはじめとする未整理資料の整理・目録化を進める。
- (2) 博物館資料の写真撮影を行いデジタル化に努める。

4. 資料の貸出・利用

- (1) 資料保存を最重要視し、貸出可能なものについては出品に協力する。

本年度は特に、京都国立博物館で開催される「雪舟伝説」展に、国宝の雪舟筆「四季山水図（山水長巻）」を貸し出し、毛利博物館の知名度を上げることに努める。

- (2) 出版物等への写真掲載・収録等に関しては、その目的を精査のうえ協力する。

特に毛利元就・輝元や『源氏物語』・雪舟関連の番組や著作に関しては積極的に働きかける。

- (3) 学術的な研究・調査については積極的に協力する。

5. 図書・備品の購入

- (1) 必要に応じて基本図書・参考図書を購入する。
- (2) 資料保存、展示や調査・研究に必要な用具・資材を適宜購入する。

6. 教育普及事業

- (1) 国際博物館の日(5月18日)への協賛行事として、同日を無料開館とし、博物館利用の促進を図る。
- (2) 新学習指導要領に記載されている博物館の積極的利用の趣旨に従い、学校による博物館の利用に協力する。また、教員等の研修にも協力し、博物館の周知ならびに利用拡大に寄与する。
- (3) 小学校の夏休みを利用し、6年生を対象とした博物館教室を開催する。
- (4) 次代の博物館学芸員養成という公益に資するため、博物館実習の希望者があれば、精査の上受け入れる。
- (5) 本館内に新たに敷設予定の Wi-Fi 回線、および展示室の既存の回線を用いて、展示等の解説の発信方法を多様化することで、来館者の満足度を高めることに努める。

7. 広報活動

- (1) 展覧会ごとにポスター・チラシなど広報資料を作成し関係機関に配布する。
- (2) 博物館に対する取材・照会に対しては懇切に対応し、企画の周知に努める。
- (3) 博物館広報に関しては、インターネット等の積極的利用を促進する。

特にホームページの刷新に努めるとともに、改善された通信環境を活かしながらSNSなど、博物館からの情報発信を強化する。

8. 出版物の刊行計画

- (1) 既存出版物の在庫を確認し、不足するものは増刷し、物品の売上増に努める。
- (2) 山口県の補助金を活用して博物館・庭園のリーフレットを新たに作成し、見学者の満足度を高める。

9. 施設・設備の保守・点検

- (1) 照明や展示ケース、収蔵庫など老朽化が目立つところについては、適宜点検し、状況によっては補修する。

II 庭園・建造物の保存・管理

(1) 庭園の維持管理について

庭園樹木の剪定、松枯れ対策及び庭園の清掃整備は、行政関係部署や専門家の指導協力を頂きながら、庭園担当の職員や専門業者が行っている。特に今年は瑞風来訪対策として、防府市の支援を受け「表門前道路整備」及び「三角池転落防止柵改修」を実施するとともに昨年度に引き続き、山口県の支援を受け、「表門から噴水池までの樹木管理」を行い、多くの市民や観光客が訪れ、季節ごとの風情を楽しめる空間として充実を図る。

また樹木の樹齢が古くなり、枯れ松除去後の移植等が必要になっており、国指定名勝としての価値の保存と活用に向け、庭園整備計画づくりも検討が必要である。

(2) 旧毛利家本邸の保存・管理

本邸の保存・修理は、「重要文化財旧毛利家本邸保存活用計画(2015年3月作成)」に基づいて順次行っているが、台風や大雨災害への応急対応に追われている状態である。文化財建造物としての価値の保存と活用に向け、毀損修復など景観整備に努め、特に、来訪者の満足度向上のために館内受入環境(WI-FI・説明板等設置)の充実を諮る。

また、消防計画に則り、防災設備の定期点検、及び日常の保守整備を実施し、一層の防火・防災対策に努めていくが、消防機器等新たな防災対応の検討が必要となっている。

III 来館者・入園者の増加にむけて

観光庁の補助事業や山口県の「文化財を活用した観光コンテンツ造成モデル事業」等によりインバウンド観光客の誘致など、山口県を始め、山口市、萩市等萩往還を結ぶ各都市との観光連携事業、さらには防府観光コンベンション協会、山口県立美術館などとの連携を強め、広域観光の核施設として、より多くの来館者・入園者を呼び込めるよう連携と工夫を重ねる。

(1) 防府市及び防府観光コンベンション協会との連携、イベントの実施

(2) 山口県文化振興課、山口県立美術館との連携

(3) 旅行会社・鉄道・バス会社などへのアプローチ

防府観光コンベンション協会の「防府団体旅行助成事業」を活用し、各旅行会社等に対する働きかけを強めていく。

(4) 広報の充実

- 企画展等の開催にあたり、事前の広報資料を作成し、読賣新聞西部本社、KRY 山口放送などのメディアや観光行政関連、関係博物館、旅行・宿泊業者等に積極的に配布する。

- 季節の庭園の様子や開催するイベントごとにメディアに周知し、特にテレビ放送に取り上げてもらうことで、PR 効果を高めていく。
- 博物館広報に関しては、インターネットの積極的利用を促進する。

(5) 新たなファンづくりに向けた集客増大手法の調査研究

公益財団法人毛利報公会の事業目的達成にむけて、ファンづくりを進める手法や建物・庭園の修理保存のため資金調達方法を関係機関と連携しながら調査研究する。